

『なぜメディカルドクターである妻が、 証明されていない療法を選ぶのか？』

—興味深い NAET の一症例—

2013.5.8 デイビッド・ビラーノ筆

30代の企業弁護士が施術用ベッドにうつ伏せとなり、透明な液の入った小瓶を握りながら、深い呼吸をする、何度も、何度も。私の妻、キャスリーンは内科専門医だが、代替療法の不思議な施術を日々実践している。彼女は、女性の首の両わきを親指で押し、背骨にそってゆっくりと下に移動させていく。

この女性は慢性疲労・鼻づまり・ひどい鼻水に悩まされていて、通常の医学の治療はそれを治せなかった。だから彼女はキャスリーンのところに来たのだ。数週間後、同じような施術を何度かしたあとで、その女性から結果報告の電話が来た。すべての症状が劇的に改善された。

その女性は言葉にならないほど驚いていたが、私も驚いた。私にはブドゥー教のまじないか何かには見えなかったのに、いったいどうやって彼女の慢性病を改善させたのかを説明してくれと、キャスリーンを問い詰めた。彼女は手のひらを上に向けて肩をすくめ、「上手くいくの。どう言ったらいいかしら？」と答えた。

NAETの創始者は、ほとんどすべての病気や疾患、さらに発達障害でさえ、アレルゲンからの電磁信号が体内のエネルギーの流れを遮断したときに引き起こされる、と確信している。

キャスリーンだけでなく、通常の医学教育を受けた医師たちが、科学的証拠に基づく西洋医学と、十分な根拠に欠け、かつ医学との矛盾点も多い代替療法との交差点で働いている。当然の流れとしてこうした施術は、かつてほど珍しいものではなくなって、国立保健統計センターによると、アメリカ人の38%が何らかの補完・代替医療（はりから太極拳まで）を利用している。

しかしキャスリーンが弁護士に行った施術は、医療の世界において、いい評判は聞かないものだった。

ナムブドゥリパッドアレルギー除去療法、もしくはNAETと呼ばれている。

主流の医療雑誌「今日のアレルギー・臨床免疫学 (Current Allergy & Clinical Immunology)」は最近これを、「今まで提唱された中で最も根拠のないアレルギー治療」と言い表した。いんちき療法監視ドットコム (Quackwatch.com) という、ある退職後の男性医師が運営する医療監視サイトでは、NAETを「つけ込みと盗みの組み合わせ」と呼び、施術者に会ったら誰でも、州の司法長官に訴えるようにと勧めている。

こうした警告に対し、私はジャーナリストでもともと疑い深いほうだが、キャスリーンはそこで悩んだりしない。47歳の分別ある経験豊富な臨床医、キャスリーンの出した最終結論は、NAETという行為を信じることなのだ。彼女自身、NAETで長引く胃腸の病気が軽快し、タバコ中毒からも解放されたと言っている。

これをきっかけに彼女は転身した。マイアミ・デイド郡の拘置所の医療業務管理職という楽な仕事を辞め、西洋医学に、はり・栄養医学・その他代替療法を統合した個人独立開業という不確実な方を選んだのだ。日の差しこむマイアミの仕事場で、サンダルと白いジーンズにゆったりした花柄のブラウスをまとった彼女は言う。「他の内科医がしていない方法で、人々を助ける義務が私にはある、と感じたの。」

NAETは中国医学の原理を元にして創始者は、インド生まれのDr. デビ・ナムブドゥリパッド68才、ロサンゼルスのカイロプラクター（訳注：Dr. デビの資格は、医師・鍼灸師・カイロプラクター・看護師、中医学の博士号保持）で、彼女はほとんどすべての病気や疾患、さらに自閉症を含む発達障害さえ、アレルゲン（食物・化学物質・ホルモン・タ

ンパク・その他の物質など)からの電磁信号が体内のエネルギーの流れを遮断したときに引き起こされる、と確信している。(前出の弁護士は、ある種のおもちゃや香料にアレルギーがあった、とキャスリーンが言っていた。)

その施術方法はマニュアル化されており、アレルギー (通常バイルと呼ばれる小瓶) を持ちながら背中を押すというシンプルなもので、かつこれまでの医療費に比べてずっと安くできる。(訳注:アメリカは国民保険がないため、医療費・薬代ともにとてとても高い。)

キャスリーンはナムブドゥリパッド女史のもとでトレーニングを受けているが、女史は世界中で1万人以上の人々を指導してきており、その中には医師もたくさんいると言う。

ナムブドゥリパッド女史のウェブサイトや著書には、安価で奇跡的に回復するNAETを描き出す統計データが満載だ。関節炎に対し施術した患者1,127人に98%の成功率、1,243人の頭痛患者に対し98%の成功率、うつがある390人の患者に対し98%の成功率。リストは続き、消化不良・不眠・不安・喘息に至るまで、すべてが軽快している。私はこれらの数字について、女史とともに働く息子のDrロイに訊ねた。彼は淡々と、Drデビの示したデータに対して、比較可能で、かつ科学的な西洋医学における対照データがないことを指摘して、私を驚かせた。

ナムブドゥリパッド女史たちは、より厳密な証拠・データを生み出し、それを普遍的に残せるよう働いている。1年前、女史は共著で、自閉症の子供たちにNAETが与える影響についてのレポートを書いた。その中には、1年間のNAET施術のあと、30人中23人の子供が自閉症評価尺度で、通常学級の環境へ十分戻れるほど高い数値を示し、一方の対照群の子は、一人も戻らなかった経緯が紹介されている。

この研究は、「統合医療:臨床医ジャーナル(Integrative Medicine: A Clinician's Journal)」に審査を通過して掲載されたが、「ニューイングランド医学雑誌(The New England Journal of

Medicine)」やその他の一流医学雑誌は、その研究の出版を辞退した。

キャスリーンは、患者に選択肢として施術を説明する際、ハードサイエンス(数量化できる明確な科学)の不足を考えに入れる。「突拍子もないと思われるのは分かっているのだけど…」と告げてから、患者にNAETのことを説明する。

「誰にでもNAETを勧めはしないわ。簡単には理解できないようなことでも、何か受け入れられそうと思う人にしか、私は勧めないの。」と妻は私に言う。そして最近彼女は、自身のウェブサイトからNAETの項目を外してしまった。

なぜなら、患者が自分自身で探し出して来てくれるのがいいからだ。不思議な施術をする医師という口コミで。

■筆者 デイビッド・ピラーノ

デイビッド・ピラーノは受賞歴もあるジャーナリストで、マイアミを拠点とし、マイアミ・ヘラルド、サウスフロリダ・サン・センチネル、ニューズウィーク、マザージョーンズ、コロムビア・ジャーナリズム・レビューなど多くの紙誌に原稿を書いている。